

俳句

くぼはくせん
久保白船



周南市・平生町
(1884～1941)

久保白船（本名、周一）は、平生町佐合島に生まれた。明治から大正に変わる頃、萩原井泉水の自由律俳句誌『層雲』の同人となり、やがて選者として活躍した。その生き方と作風は一致しており、家族を愛し友を尊敬し花鳥などの自然を愛でる、おだやかな平凡の中に、深い味わいのあるものが多かった。大正九年徳山（現在の周南市）の駅付近に移住すると、多くの文人が集まり、地方文化の中心的な存在となった。昭和十五年、親友種田山頭火が急死すると、急いで四国に渡り、遺体を茶毘に付した。そして翌年白船も急逝している。

（瀬川芳昭）

【主な著作】

句集『ふきのたう』（昭和16年）